



りあん

第1号



目次

院長あいさつ…………… 2
基本理念・組織紹介 …… 3
部門紹介 ……………… 4

感染症対策…………… 5
ふたばのあゆみ …… 6～7

院長あいさつ

～ 広報誌「りあん」発刊にあたって～

福島県ふたば医療センター附属病院 病院長 谷川 攻一



病院広報誌「りあん」の発刊にあたって、当院について紹介させていただきたいと存じます。福島県ふたば医療センター附属病院は、夜間、休日、盆正月を問わず救急外来をオープンしており、怪我や急に具合が悪くなった住民の診察がいつでも行えるよう医師、看護師、医療スタッフが待機しています。また、双葉郡内の診療所に対応が困難な患者さんの診察も行っています。そして、入院が必要となった患者さんのお世話ができるように入院病床も整備しています。

もう一つの当院の大きな特色は多目的医療用ヘリコプターです。緊急の手術やカテーテル治療など専門的な治療が必要な患者さんの搬送に使用しています。いわき市や南相馬市までの飛行時間は10数分、そして郡山市、更には福島市までも20分ほどです。救急車のように大きく揺られることが少なく、患者さんにとっても快適です。

常勤医は病院長である私と宮川明美診療部長の2名です。福島県立医科大学や広島大学からは多くの先生方に支援してもらっており、私たち常勤医に加えて、非常勤の内科医、外科医が24時間体制で診療しています。

看護部は外来、訪問看護、病棟の3部門に分かれ、30名の看護師が患者さんのお世話をしています。薬剤部、検査部、栄養部にもそれぞれ2名の専門職員、放射線部には3名の専門職員が勤務しています。理学療法士、作業療法士はそれぞれ1名が外来、そして在宅でのリハビリテーションを行っています。事務職員は6名で様々な事務業務を担っています。この他に外部委託職員の力もお借りしています。

今年、当院は開院して4年目を迎えます。最近では超高齢の方に加えて、障がいや様々な病気を持つ住民も帰還するようになりました。当院では訪問看護や訪問リハビリテーションによって病気の悪化を未然に防ぐお手伝いをしています。また、病気が悪化した場合には入院治療を行い、回復後には再び自宅での生活が行えるよう、当院の地域連携室が在宅復帰支援を行っています。当院は双葉郡の町村とも連携しながら、地域包括ケアシステム（高齢者が住み慣れた地域で自分らしい生活を最期まで送れるように地域内でサポートし合うシステム）を担う医療機関としてその整備支援を行っています。この他、私たちは住民の病気の予防、健康作りを目的とした活動にも取り組んでいます。「お薬手帳の上手な使い方」、「ロコトレで体を動かし元気に長生き」、「上手な塩分の減らし方」などをテーマに、当院の専門職員が出前講座を行っています。

当院の目標は、「住民が安心して帰還し生活できる」、「復興事業従事者が安心して働ける」、そして「企業等が安心して進出できる」の「3つの安心」を確保することです。双葉郡の復興を医療の面から支えるため、私たちスタッフは丸一となって皆さんの期待に応えて行く所存です。広報誌「りあん」を通じて、私たちの活動についてのご理解を深めることができれば幸いです。また、忌憚のないご意見やご要望をお寄せください。

どうぞよろしく願いいたします。

2021年 吉日

〈基本理念・組織紹介〉

当病院は、「3つの安心」を医療面から支えます！

私たちは、

- ・ 地域住民や復興事業従事者の安心を医療面から支え、双葉地域の復興に貢献します
 - ・ 住民等の健康を守る医療・信頼される医療をめざし、地域住民とともに歩みます
- を理念とし、日々の業務にあたっています。

3つの安心

- 1 住民が**安心**して帰還し生活できる
- 2 復興事業従事者が**安心**して働ける
- 3 企業等が**安心**して進出できる



病院の方針

- 1 高い倫理観のもと、命と人権とプライバシーを尊び、患者さん中心の医療を提供します
- 2 近隣の医療機関との連携のもと、双葉地域の救急医療を担い、良質で安全な医療を提供します
- 3 地域住民や復興事業従事者が、地域や在宅での療養を安心して継続でき、より健康に生活できるように支援します
- 4 医療機関や介護施設・事業所、町村と協働し、地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の構築を医療面から支えます
- 5 職員一人ひとりが専門職としての誇りを持ち、医療の成果を県内、全国に発信します

組織概要

● 事務部

- ・ 総務…病院の総務業務
- ・ 医事…病院の医事業務

● 診療部

- ・ 救急科、内科…救急医療の提供（2次救急）、多目的医療用ヘリコプターの運用
- ・ 栄養…給食の提供、患者の栄養管理・指導
- ・ 放射線…CTやX線による撮影、線量管理、装置管理
- ・ 検査…検体・生理検査
- ・ リハビリ…患者のリハビリテーション

● 看護部

- ・ 外来…救急患者への看護の提供
- ・ 病棟…入院患者への看護の提供、退院後の生活指導
- ・ 在宅…在宅療養支援、町村や医療機関、介護福祉機関との連携調整業務

● 薬剤部

- ・ 薬剤…調剤業務、医薬品・情報管理

部門紹介 ～看護部～

vol. 1

外来チーム

外来は、2次救急医療機関として救急患者や夜間・休日の急病、かかりつけ医から紹介の患者さんを受け入れ外科系・内科系の医師が診察を行っています。状態に応じ高度医療や専門医療が必要な場合、継続して適切な医療が受けられるように地域連携室で病院調整を行っています。また、多目的医療用ヘリによる患者搬送や他院の病院間搬送も行っています。

救急病院である当院は、急な発症により不安を抱え受診となる初診患者さんが多くいますが、スタッフが協働し安心して治療が受けられるような医療を提供していきたいと思います。



病棟チーム

入院患者さんへの治療が安全・安楽に進むように看護を提供しています。日々のカンファレンスでは治療方針に基づく看護方針の共有や実践評価を行っています。リハビリスタッフや薬剤師、栄養士も加わりそれぞれの専門職の立場から話し合いを行っています。

同時に退院後の療養生活を踏まえた生活指導も行っています。お薬の飲み方、栄養の取り方、運動の仕方、生活上で注意することなど、お一人おひとりが在宅での療養生活を安心して過ごして頂けるような取り組みを行っています。また、退院後に支援が必要な場合は町村担当者と連携して支援に結び付けています。職員が一丸となって「救急医療から在宅医療、切れ目なくつなぐ」を実践しています。



在宅チーム

在宅チームは主として「地域連携」「訪問看護」を担当しています。自宅に戻った患者さんの笑顔やADLが向上した姿を間近で見ることができるのは大きな喜びです。患者さんを生活者としてとらえ、どう関わればよいのかをイメージできるのは在宅チームの強みだと考えています。

また、患者さんを生活者としてとらえるためには、地域との情報交換が非常に大切です。日頃から観察の目を養い、患者さんの一番適した方法、状態で生活できるよう、在宅療養支援を行いたいと思います。



感染症対策

新型コロナウイルス感染症の全国的な感染拡大があり、例年以上に感染症対策が大切になります。当院で行っている感染症対策についてご紹介します。

院内での取り組み

手指衛生は普段の生活でも大切ですが、医療機関においても最も重要な感染症対策です。当院ではアルコール消毒剤の手指衛生を行っています。各ゾーンにアルコール消毒剤を設置し、職員は携帯型のアルコール消毒剤を使用しいつでも手指衛生を行うことが出来るようにしています。待合室などのパーティションの設置、ソファ、診察室などのアルコールでの消毒、必須研修以外にも適宜感染症対策研修を行っています。

また、毎朝のミーティングで現在の新型コロナウイルス感染状況を共有し、職員の意識付け、マスク装着、手指衛生の徹底を呼び掛けています。



院内感染対策研修の様子

手洗い方法

正しい手の洗い方

手洗いの前に
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう



1 流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。



2 手の甲をのぼすようにこすります。



3 指先・爪の間を念入りにこすります。



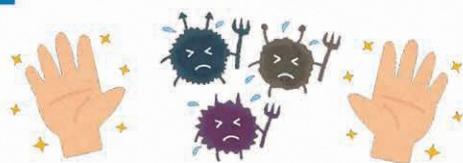
4 指の間を洗います。



5 親指と手のひらをねじり洗いします。



6 手首も忘れずに洗います。



石けんで洗い終わったら、十分に水で流し、清潔なタオルやペーパータオルでよく拭き取って乾かします。

厚生労働省ホームページより一部抜粋

ふたばのあゆみ



ふたば医療センター附属病院

@futaba_fuzoku

こちらのQRコード
よりTwitterのホーム
画面に飛べます！



公式 Twitter ではふたば医療センターの取り組みや出来事を発信しています。
ふたば医療センターの取り組みをもっと知りたい方、どんな雰囲気の病院が知りたい方などぜひご
覧ください！フォローやリツイート、いいねも大歓迎です！
今回は Twitter に投稿した内容の一部を紹介します。

看護学生の在宅看護実習



松尾島根県副知事視察



院内勉強会



双葉消防本部との情報連絡会



救急搬送にかかる課題の検証や多目的ヘリの運用についての協議が行われます。

「放射線の安全利用」をテーマにした研修会でした。放射線の基本原則、3原則など、放射線に関わる理解を深めました。

医療安全研修



DMAT 研修

10月30日に多数傷病者 DMAT 訓練が行われました！

福島県内の DMAT 5 隊、双葉地方の消防本部などが集まり、患者搬入・処置・転院搬送・入院まで行いました。訓練に参加したひとりひとりが役割を果たし、落ち着いた対応ができていたと思います。学んだことや反省を活かし今後に繋げていきたいです！



医師・看護師・ロジスティクスに分かれて、役割を決めます。
(チームビルディング)

患者の状態によって赤・黄・緑にゾーン分けして処置にあたります。



コロナや放射線による被ばくの可能性も視野に入れたゾーニングや防護具の使用もしています。

振り返りの様子です。



クリーンマンデー

毎月第一月曜日はクリーンマンデー活動日です！

病院内の草刈りをしたり、お花を植えたりと季節を感じながら美化活動に取り組んでいます！

10月

五洋建設株式会社の皆さまと病院の周りの草刈りでした。生い茂っていたところも、きれいになりましたよ！

草刈りというと春から夏のイメージですが、秋来ぬと～なんていう和歌のように、風が心地よい時間でした～



11月

当院の正面玄関にお花を植えました！種類は葉牡丹、ビオラ、プリムラ・ジュリアンの3種類です！当院の“ふたばマーク”になるようにみんなで考えて配置。

玄関が少し明るくなりました～!!
お疲れ様でしたっ！

12月

正面玄関にイルミネーションを設置しました！11月に作ったふたばマークのお花は、イルミネーションによってハート型となり、メルヘンです！





編集後記 ～タイトルに込めた思い～

Lien（りあん）はフランス語で「人と人をつなげる」という意味があります。

最近、緑の穂を揺らす海風に吹かれながら犬の散歩をしていた子供のころを思い出します。あの頃はこんな風になるとは微塵も思いませんでした。時を戻すことはできませんが、震災で失ったもの、途切れてしまったものを少しずつでも紡いでいけたらとの思いを込めて「りあん」と名付けました。

福島県ふたば医療センター附属病院

〒979-1151 福島県双葉郡富岡町大字本岡字王塚817-1

電話 0240-23-5090/FAX 0240-23-5091

ホームページ

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/futaba/>